

2025年度 放送大学教育振興会助成事業成果概要

1. 事業の課題名

オンデマンド講義と対面講義を併用したリカレント教育におけるラーニングファシリテーター人材を用いた学習支援と人材育成方法の探索と構築（2－1）

2. 研究者情報

所属機関名	国立大学法人 北海道大学
職 名	特任教授
研究者・研究 代表者氏名	種村 剛

3. 事業の目的等

リカレント教育では社会人受講生の受講しやすさのためにオンデマンド講義と対面授業が組み合わされている場合が多い。リカレント教育の受講者は属性・学習動機が多様である。ゆえに、学生以上に学習サポートや、個別ニーズへの対応が必要となる。

上記を踏まえ、本事業は「リカレント教育を修了した受講生をプログラムのラーニングファシリテーターとして採用する」プランを提案する。「ラーニングファシリテーター（以下LF）」、受講生の学習をサポート・伴走する者を指す言葉として用いる。LFは「プログラムを学んだ先輩」として、後続する受講者の学習をサポートするメンターの役割を担う。

本事業の目的は、オンデマンド講義を用いるリカレント教育におけるLFの役割および、そのために必要とされる知識やスキルを、実際のリカレント教育プログラムを運営する中で実践的に明らかにすることである

4. 事業の成果の概要

1年目の事業の成果

1年目の事業成果は、①研究フィールドに相当する、オンデマンド講義と対面講義を併用したリカレント教育「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」（ささプロ）の実施、②ささプロにおける「ラーニングマネージャー」の導入、③ラーニングマネージャーによるオートエスノグラフィの作成、振り返りディスカッションの実施である。この3つの事業成果は、2年目に展開する前述の事業目的の本丸である「オンデマンド講義を用いるリカレント教育におけるラーニングファシリテーターの役割および、そのために必要とされる知識やスキルを、実際のリカレント教育プログラムを運営する中で実践的に明らかにすること」のフィールドおよび1年次のデータとなる。以下、それぞれ説明する。

1) オンデマンド講義と対面講義を併用したリカレント教育の実践

研究代表者が所属する北海道大学リカレント教育推進部は「オンデマンド講義と対面講義を併用したリカレント教育におけるラーニングファシリテーター人材を用いた学習支援と人材育成方法の探索と構築」（以下、本事業）と連動し、2025年10月に「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」（以下、ささプロ）を開講した。

本事業の「オンデマンド講義と対面講義を併用したリカレント教育」に相当する、ささプロを実施するため、本事業の助成金をささプロのウェブサイトの構築に使用した。このウェブサイトは、ささプロのアウトリーチ、募集の機能を果たすものである。本ウェブサイトはささプロの10月の開講に合わせて8月中旬に公開した。



北海道大学リカレント教育プログラム

Recurrent Education Programs in Hokkaido University

Q & A

お問合せ先



北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部

共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム(ささプロ)

概要

授業の内容

受講説明会

受講申込



募集要項

をダウンロード

↓

概要

授業の内容

受講説明会

受講申込

Q & A

お問合せ先

概要

ささプロとは？

ささプロの正式名称は「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」です。北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部が提供する、社会人向けの講座です。

ささプロは、地域やコミュニティの課題解決を目指し「共生のまちづくり」の実現を目指すイベントを、構成・計画・実施・運営する「共生を支えるコミュニティマネージャー」(略称、ささマネ)を養成することが目的です。

ささマネが求められる理由

図 1 ささプロのウェブサイト <https://reh.grad.hokudai.ac.jp/sasapro/>

また来年度、ささプロの実施において、上記のウェブサイトを転用することができるように、本事業の助成金を用いて、CMS 化を図った。CMS 化することで、他のリカレント教育プログラムにも転用できるようになった。

2)「ラーニングマネージャー」の導入

LMS を「オンラインの学び合いの場」として機能させることを主目的として、ささプロに「ラーニングマネージャー」(LM)を導入した。LM は LMS で講義や議論の記録、講師のアシスタント、発言を促す場づくり、対話・交流の働きかけ、まとめの発信、課題の指示・定期的な連絡を行い「講師と参加者とは異なる立場で学びの場に関わり、参加者の迷い、期待、不安に寄り添い、学びに伴走する役割」を果たす。ラーニングファシリテーター (LF) よりも教育プログラムの設計や実践の中核に関わる人材が LM である。本事業の助成金を用いて LM を 1 名雇用した。

ささプロは、オンデマンド講義 (20 講義) と対面 2 日間で実施する、演劇創作集中演習および、選択科目のワークショップ (3 回) で構成されている。オンデマンド講義のプラットフォーム

ムとしてラーニング・マネジメント・システム（LMS）を導入している。

ささプロは2025年10月に開講し、翌1月に閉講した。受講者は22名、うち修了者は20名（修了率91%）であった。

LMには、業務日誌を書いてもらうことで、その仕事で気づいたことを明らかにしてもらっている。

共生を支えるコミュニティマネージャー（ささマネ）とは

日々の暮らしを、すべての人にとって豊かでよいもの（well-being）にしていくためには、行政、市民、事業者の連携・連携が欠かせません。ささマネは、人びとをつなぐ対話の場をつくり、社会課題解決に取り組む人材です。

ささプロの定員と受講料

ささプロの定員は20名ほどを予定しています。社会人だけでなく学生も受講できます。ささプロは有料の講座です。ささプロの受講資格や受講料の詳細は、ささプロのウェブページを確認してください。

受講して欲しい人

ささプロでの学びをきっかけとして、ささマネとして、自分の新しい可能性や価値観を広げたいと考えている方、受講後、複数のステークホルダーや異なる価値観を持つ人びとをつなぐ活動を行う意欲のある方を募集しています。

例えば 公務員や教員、議員候補者、地域おこし協力隊、地域課題の解決に取り組むNPO法人の構成員、医療や福祉関係者、メディア関係者 etc.

ささプロの授業内容と修了証

ささプロは、オンラインでいつでもどこでも好きなときに学べる「オンデマンド講義」、実際に演劇創作を通して、課題解決への態度を磨く「演劇創作集中演習」、そして対面で講師と対話し参加者同士で情報共有を行う「ワークショップ」で構成されています。ささプロを修了すると北海道大学校長名の「修了証」が授与されます。

授業の種類	区分	学び方と学べる内容	方法
オンデマンド講義	必修科目	30～40分ほどの講義動画をオンラインで視聴して受講します。共生社会についての知識、イベント設計と運営のスキル、演劇創作について学びます。	オンライン
演劇創作集中演習	必修科目	演劇の実演者と劇場の協力のもと、2日間の集中演習を行います。受講者はグループに分かれて2日間で15分ほどのお芝居を制作します。他者と協働するためのコミュニケーションや、リーダーシップ、チャレンジすることの重要性を体験的に学びます。	対 面
ワークショップ	選択科目	共生社会に関する専門家に対話し、参加者同士で情報共有を行います。参加者同士のネットワーキングも進めます。	対 面

ささプロの授業のようす

20名以上のオンデマンド講義を準備、いつでもどこでも好きなタイミングで学べます

講義の構成

導入）講義の目的・達成目標の確認
モジュール1）「まちとはなんだろうか」
モジュール2）「社会とはなんだろうか」
モジュール3）「福祉とはなんだろうか」
モジュール4）「フェルビーイングとはなんだろうか」
モジュール5）この講義のまとめ

モジュール1の目的

「まちづくり」について理解を深めるために「まち」の意味を再確認すること

【モジュール1の目的】

- 「まち」や「地域」の意味を説明できるようにする
- 「まち」が「社会」の単位であることを理解できるようにする
- 「まち」を構成する要素として、土地や建物、地方公共団体、そこで暮らす人びとがどのように関わっているかを理解できるようにする

2日間の集中演習では、グループで小さなお芝居を制作します

作ったり体験したり話し合ったりする学びが中心のワークショップ

ささプロの運営にかかわっている人たち

ささプロは北海道大学リカレント教育ユニットの教員が中心となって運営しています。

協力教員

明田 川知美 北海道大学 専任講師
加藤 博文 北海道大学アイ・エイ研究センター 教授
鄭 漢模 北海道大学教育イノベーション機構 准教授
武藤 俊雄 北海道大学公共政策大学院 准教授

ささプロラーニングマネージャー

佐久間 泉真（企画・制作制作、監修・演出）
演劇創作統括 清水 友晴（公益財団法人北海道演劇財団 専務理事・芸術監督）
演劇創作ファシリテーター 鶴見 圭子・熊木 志保・相馬 日奈・戸澤 亮・中野 保月・前田 達

図2 ささプロのパフレット プログラムの構成やラーニングマネージャーが記載されている

3) LM のオートエスノグラフィおよび、LM と修了生の振り返りインタビュー

①LMには業務日誌を記録してもらった。②すべての業務終了後に、自身の業務を通じて発見したことをオートエスノグラフィとしてまとめた。また、③LMに対して振り返りインタビューを行い、その内容を記録した。

④ささプロの受講生が行った LMS の書き込みと、その書き込みに対する LM の返信のやりとりを記録した。⑤受講生には修了にあたってインタビューを行った。これらをデータとして用いることで、LFに求められている役割や、知識・スキルに関する、2年目の実証的な研究の準備ができた。

4) 2年目への展望

今回の事業により、「オンデマンド講義と対面講義を併用したリカレント教育」の研究フィールドに相当するであるささプロに対して、LMを雇用し導入することができた。記録したデータを分析したり、LMの指摘したささプロの改善点をまとめ、2年目の「オンデマンド講義と対面講義を併用したリカレント教育」に展開することで、事業の目的である、ラーニングファシリテーターの役割および、そのために必要とされる知識やスキルについて明らかにする。